

自分の思いや考えを豊かにして表現できる国語科学習指導 ～お話のお気に入り紹介カードⅠ・Ⅱ作りを通して～

要約

「知識基盤社会」の時代であるといわれている現代社会は、幅広い知識と、柔軟な思考力に基づく新しい知や価値を創造する能力が求められる。そのような社会状況の中に生きる子どもたちには、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力、すなわち「生きる力」を育てていく必要がある。本学級の子どもたちは、自分の思いや考えをつくったり、その思いや考えを話したりすることが苦手な子どもが多い。国語科[C 読むこと]に関する実態調査をしてみると、お話の大事な言葉に着目し、自分の思いや考えを書くこと等に課題があることが分かった。そこで、物語文の学習に、お話のお気に入り紹介カードⅠ・Ⅱ作りを位置づけ、文章の中の大事な言葉や文を見つけることで言葉のもつ意味や話の内容に対する理解を深め、人物の気持ちや場面の様子について想像を広げて自分の思いや考えを作り、それらを豊かに表現できる能力を身に付けさせたいと考え、「自分の思いや考えを豊かにして表現できる国語科学習指導」をテーマとして設定し、以下のように仮説を立て、研究を進めた。

物語文を読む学習において、お気に入り紹介カードⅠ・Ⅱを書く活動を、以下の観点で通すことで、言葉にこだわり、場面の様子や人物の心情を細やかに想像することができ、作品や人物に対する思いを深めたり、豊かにしたりして表現できる子どもを育てることができるであろう。

- 紹介カードⅠを書く観点
 - ・ 人物の言動や様子から考えたこと
 - ・ 人物の心情が最も表れている叙述の選択
 - ・ 選択した叙述から想像した人物の心情
- 紹介カードⅡを書く観点
 - ・ 一番気に入った場面
 - ・ 気に入った理由とその根拠(人物の変化、人物への共感、場面の山場の様子、高揚感)

実践の結果、以下のような成果(○)と課題(●)を得た。

- 紹介カードⅠに、各場面の人物の言動や様子、叙述から想像した人物の心情や、想像した心情に対してもった自分の思いや考え等を書き込ませたことで、場面毎に人物の心情を細やかに想像することができた。
- 動作化を取り入れて人物の心情を細やかに想像し、想像した心情に対してもった感想を人物への手紙という形で紹介カードⅠに書かせたことは、想像した心情やそれに対してもった思いや考えを想起し、紹介カードⅡに活かして書く上で有効であった。
- 紹介カードⅠ作りで想像を膨らませて書いた内容を紹介カードⅡ作りで活かすための人物の心情の変化のおさえかたの工夫
- 全体交流の前のペア交流における、自分の思いや考えを表現する意欲を喚起する方法の工夫

キーワード：紹介カードⅠ・Ⅱ 動作化 紹介カードのモデル

1 主題設定の理由

(1) 社会的要請・現代教育の動向から

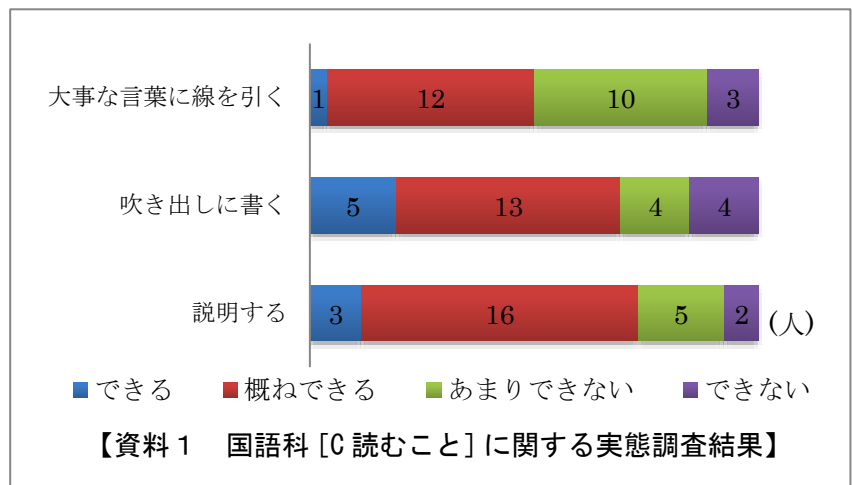
子どもたちを取り巻く現代社会は、新しい知識・情報・技術や政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す、「知識基盤社会」の時代であるといわれている。この知識基盤社会では、幅広い知識と、柔軟な思考力に基づく新しい知や価値を創造する能力が求められる。

そのような社会状況の中に生きる子どもたちには、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力、すなわち「生きる力」を育てていく必要がある。

このような状況において、自分の思いや考えを持ち、豊かに表現できる子どもを育成することは、「生きる力」を育む上においても意義深いと考える。

(2) 児童の実態から

本学級の子どもたちは、自分の思いや考えをつくったり、その思いや考えを話したりすることが苦手な子どもが多い。7月末に、国語科の学習アンケートを実施したところ、国語科の学習が好きだと答えた子どもが26人中19人で、全体の73%であった。またお話を読んで考えたことを書くことが好きだと答えた子どもは23人(全体の88%)で、書くことが好きな子どもが多いことが分かった。



またお話を読んで考えたことを書くことが好きだと答えた子どもは23人(全体の88%)で、書くことが好きな子どもが多いことが分かった。しかし、国語科[C 読むこと]に関する実態調査をしてみると、お話の中の大事な言葉に線を引くことでは、「できない」「あまりできない」の合計が13人(全体の50%)で、登場人物の行動を中心に想像を広げて読み、想像したことを吹き出しに書くことでは、「できない」「あまりできない」の合計が8人(全体の30%)、また、自分の考えの理由を根拠をもとに説明することでは、「できない」「あまりできない」の合計が7人(全体の27%)いた。【資料1】これらのことから、お話の大事な言葉に着目し、自分の思いや考えを書くこと等に課題があることが分かった。

そこで、文章の中の大事な言葉や文を見つけることで言葉のもつ意味や話の内容に対する理解を深め、人物の気持ちや場面の様子について想像を広げて自分の思いや考えを作り、それらを豊かに表現できる能力を育てる必要があると考える。

(3) 国語科の本質から

小学校学習指導要領解説〔第1学年及び第2学年「C 読むこと」〕の目標には、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」とある。文学的な文章の解釈に関する指導事項には、「場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」自分の考えの形成及び交流に関する指導事項には、「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し

合うこと」とある。さらに、「文章の中の大事な言葉や、文を書き抜くこと」は、理解を深めたり、自分の考えをまとめたりするときに役立つことなどから、言葉を獲得しながら文章の内容について想像を広げ、自分の思いや考えをまとめ、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりするための有効な手立てであると考えられる。これらのことから、自分の思いや考えを豊かにして表現できる子どもの育成を図る本主題は、国語科のねらいを達成する上からも意義深いと考える。

2 主題の意味

(1) 主題「自分の思いや考えを、豊かにして表現できる」について

① 「自分の思いや考え」とは

文章を読み、場面の様子や登場人物の心情などについて、そこにどんなことが書かれてあるのか、また、そこからどんなことが分かるのかについての考えのことである。また、想像して、分かったことや気付いたことに対してもった自分の思いや考えのことである。さらには、友だちの思いや考えを聞いて、深まり高まった自分なりの思いや考えである。

② 「豊かに表現できる」とは

自分の思いや考えを明確にもち、相手や目的に応じて、自分の思いや考えを表現し、伝えるためには、どのような言葉を選択し、どのように表現することが適切かを考えることである。さらには、考えたことをいきいきと書いたり話したりして、わかりやすく伝えることができることである。表現する際には、学習や日常の生活を通して身に付けた言葉や表現方法をもとに、児童が言葉の選び方や使い方等を工夫することで、相手により分かりやすく、思いや考えを伝えることができると考える。

(2) 副主題「お気に入り紹介カード」について

① 「紹介カードⅠ」とは

各場面の人物の言動や様子、人物の心情、そしてそれに対してもった自分の思いや考え等を書き込むカードのことである。思いや考えをもつには、着目した言葉や想像の根拠となる言葉を明らかにする必要がある。このカードを作成することによって、一つひとつの言葉にこだわったり、場面毎に人物の心情を細やかに想像したりしながら読むことができると考える。

② 「紹介カードⅡ」とは

場面毎に書いた紹介カードⅠを使い、自分の想像したことやそれに対してもった思いや考え等を振り返り、全体を通しての人物の変化、人物への共感、場面の山場の様子、高揚感を書き込むカードのことである。相手意識をもって作成することにより、自分の作品に対する思いを深めたり、豊かに表現したりすることができる。と考える。

③ 「紹介カードⅠ・Ⅱ作りを通す」とは

お話を読む際に、場面毎に書く紹介カードⅠと、全場面を紹介カードⅠにより振り返って書く紹介カードⅡ作りを通すことにより、言葉にこだわり、自分の思いや考えを豊かにして表現できる子どもを育成することができる。つまり、カードⅠ作りにより、場面毎に人物の心情を細やかに想像したり、一つひとつの言葉にこだわったりしながら読み、カードⅡ作りにより自分の作品に対する思いを深めることができるため、二つの活動を通すことにより、自分の思いや考えをより明確に持ち、相手や目的に応じて、自分の思いや考えを豊かにして表現することができる子どもを育てることができる。と考える。

「自分の思いや考えを言葉で表現できる」具体的な子どもの姿

- ・ 場面の様子や、登場人物の心情が分かる言葉を見つけ、立ち止まることができる子ども。
- ・ 立ち止まった言葉や、言葉と言葉の組み合わせから想像を膨らませ、自分の思いをもつことができる子ども。
- ・ 自分の思いや考えを、立ち止まった言葉を使って書くことができる子ども。
- ・ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えを書くことができる子ども。

3 研究の目標

国語科の文学的文章を読む学習において、自分の思いや考えを豊かにして表現できる子どもを育成するため、作品のよさを紹介するカード作りを位置づけた国語科学習指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

物語文を読む学習において、お気に入り紹介カードⅠ、Ⅱを書く活動を、以下の観点で通すことで、言葉にこだわり、場面の様子や人物の心情を細やかに想像することができ、作品や人物に対する思いを深めたり、豊かにしたりして表現できる子どもを育てることができるであろう。

- 紹介カードⅠを書く観点
 - ・ 人物の言動や様子から考えたこと
 - ・ 人物の心情が最も表れている叙述の選択
 - ・ 選択した叙述から想像した人物の心情
- 紹介カードⅡを書く観点
 - ・ 一番気に入った場面
 - ・ 気に入った理由とその根拠(人物の変化、人物への共感、場面の山場の様子、高揚感)

5 研究計画の概要

(1) 検証の対象

小郡市立東野小学校第1年2組(男子14名、女子12名、計26名)

(2) 仮説検証の内容と方法

本仮説に迫るために、以下のことに重点を置いて取り組む。

① 紹介カードⅠ・Ⅱ作りを位置づけた学習過程を設定する。

段階	つかむ	つくりあらかわす	みがく	身につける
活動	1 <u>学習のめあてをつかみ、見通しをもつ活動</u> ・紹介カードⅠ作り ・紹介カードⅡ作り	2 <u>紹介カードⅠ作り</u> <u>紹介内容</u> ・あらすじ ・好きになった言葉・文 ・叙述と自己の経験を結び付けて想像したこと	3 <u>紹介カードⅡ作り</u> <u>紹介内容</u> ・一番気に入った場面 ・気に入った理由とその根拠(人物の変化、人物への共感、場面の山場の様子、高揚感)	4 <u>お気に入り紹介</u> <u>紹介する活動</u> ・相手意識 ・考えを明確にした紹介 ・深まった考えの紹介

② 紹介カードⅠ作りの活動の順序と支援を明らかにする。

活動	支援
<p>ア 人物の行動や様子を表す言葉に立ち止まる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">着目する言葉</div> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の行動 ・人物の行動の変化 ・人物の心情 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動作化をさせることで、つかませたい人物の心情が分かる行動を選定する。 ○ 心情が表れている叙述に線を引かせる。
イ 各場面の人物の行動や様子を想像する。	○ ペアで役を分けて人物の行動を動作化させる。
ウ 人物の心情を想像する。	○ 「その行動をしてみてどんな気持ちだった？」と問い、行動や様子と心情を結び付けさせる。
エ 人物の心情に対してもった感想を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ カードのモデルを提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・順序 ・相手意識 ○ 書くべき内容項目を提示し、「かんそうのこたば」の使用方法を助言する。

③ 紹介カードⅡ作りの活動の順序と支援を明らかにする。

活動	支援
<p>ア 各場面の内容や想像したことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の変化 ・人物への共感 ・場面の山場 ・高揚感 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み返しの観点を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・場面を話の順番に読ませる。 ・想像した心情を確かめる。 ○ 視覚的に捉えやすい板書を構成する。
<p>イ 紹介したい場面を決めて表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 紹介カードⅡを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの場面 ・好きなところ ・好きなわけ ・もった感想 ○ 紹介カードⅡを使って、発表会を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペア交流、全体交流 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紹介カードⅡのモデルを提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・人物の変化 ・人物への共感 ・場面の山場 ・高揚感 ○ 「人物への手紙」という形で、もった感想を書かせる。 ○ 全体で紹介する前に、練習のためにペアで紹介し合う時間を設定する。

④ 想像を深めるための動作化を位置づける。

目的	内容	方法
人物の心情や様子を表す大事な言葉に立ち止まったり、人物の心情や様子を細やかに想像したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の行動 ・人物の会話 ・人物の表情 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話同士の間 ・動きの速度 ・会話の口調、抑揚、速さ ・声の高低、大小

⑤ 言葉を豊かにする言語環境を工夫する。

児童が語彙を増やし、豊かに自分の思いや考えを表現することができるように、「かんそうのことば」を日常的に掲示する。また、新しい語彙を学習するたびに、「かんそうのことば」に付加し、語彙をどんどん増やすことができるようにする。また、自分の中にある思いを、言葉と適切に結びつけることができるように、自分の思いがどの言葉に当てはまるかを考えるための助言をする。

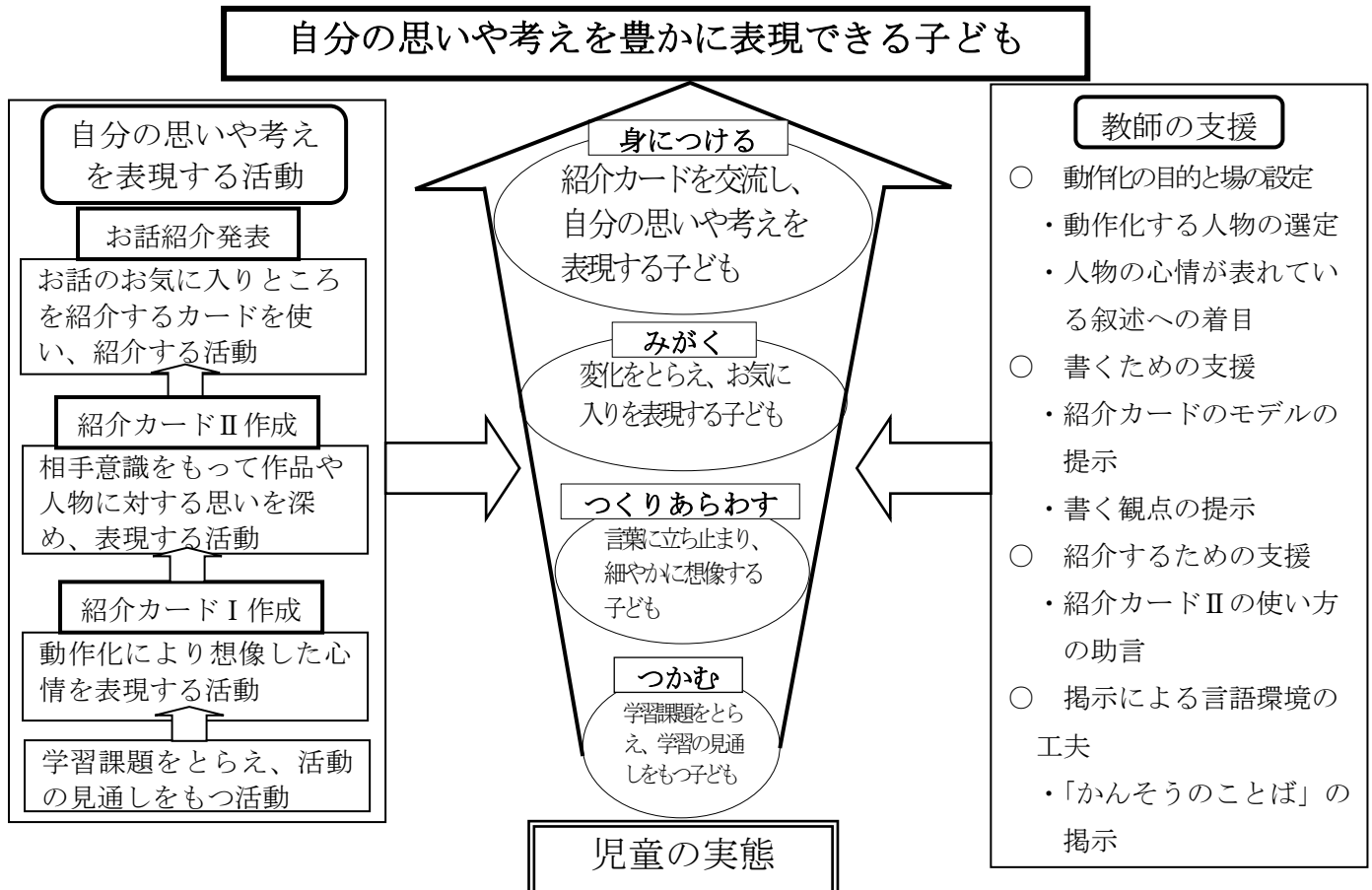
かんそうのことば			
あかるい	きれい	たのしみ	いや
あたたかい	げんきができる	どきどきする	おかしい
1ばん~だ	こころがあたたかくなる	とてもいい	おそろしい
うきうきした	さいこう	びっくりする	がっかりする
うれしい	じょうず	ふしぎである	かなしい
えらい	すき	ほっとする	きつい
おかしい	すごい	やさしい	くやしい
おきにいりである	すばらしい	よい	くらい
おもしろい	だいじ	よろこぶ	こまる
かわいい	だいすき	わかる	こわい
かんだうする	たいせつ	わくわくする	さびしい
きもちよい	たのしい	わらう	わるい

6 研究の計画

本仮説に迫るために、以下のような具体的方策に取り組む。

月	研究計画	月	研究計画
5	研究主題の設定、理論研究	10	データ分析・仮説の見直し・教材研究
6	研究主題の設定、理論研究	11	検証授業(実践2)
7	実態調査アンケート・教材研究	12	データ分析
8	教材研究	1	研究のまとめ・報告書作成
9	検証授業(実践1)	2	研究報告

7 研究の構想図



8 研究の実際

実践事例1 平成25年9月26日 小都市立東野小学校 第1学年2組 26名

(1) 単元 おはなしをたのしもう 「ゆうだち」

(2) 単元の目標

- お話を楽しんで読み、好きなどころを進んで紹介しようとする。(関心・意欲・態度)
- 登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、自分の思いや考えを、自分の経験と結び付けて書くことができるようにする。(読むこと、書くこと)
- 文章の中で大事になる人物の行動や会話、心情を表す言葉や文、思いや考えを話したり書いたりするために必要となる言葉や文などを適切に書き抜くことができるようにする。(読むこと)

(3) 指導の実際と考察

ア 人物の行動や様子、心情を細やかに読むカードI作り

活動1 本時学習のめあてをつかむ。

- ・ 本時場面を音読する。

活動2 心情を想像する。

- ・ 心情が表れている叙述に線を引く。
- ・ 行動を動作化する。
- ・ 心情を想像する。

活動3 紹介カードIを書く。

- ・ 想像した場面の様子と、心情を紹介カードIに書く。

活動4 紹介する。

- ・ 紹介カードIを使い、ペアで交流する。

支援1 紹介カードIのモデルを提示する。

- ① 書き抜いた、場面の中心となる行動や会話文
- ② 線を引いた、心情が表れている叙述
- ③ 吹き出しに書いた、想像した心情

支援2 動作化によりつかませたい心情がわかる行動や会話文を選定する。

- ・ 中心となる行動
- ・ 前場面から変化した行動

支援3 中心となる行動や会話を空欄にしたカードを作成する。

イ 登場人物に対する思いを深めるカードII作り

活動1 全場面の人物の行動を振り返る。

- ・ 各場面の紹介カードIを並べる。
- ・ 想像した人物の行動や会話を想起する。

活動2 紹介したい場面を決めて紹介する。

- ・ お気に入りの場面を選ぶ。
- ・ わけをペアで交流する。【写真1】

活動3 紹介カードIIを書く。

- ・ 活動2をもとに、自分のお気に入りの場面とその理由を再度吟味する。
- ・ カードIIに、好きな場面、好きなどころ、好きなわけを書く。

活動4 紹介する。

- ・ 紹介カードIIを使い、ペアで交流する。【写真2】

支援1 紹介カードIIのモデルを提示する。

- ① 好きな場面
- ② 好きなどころ
- ③ 好きなわけ

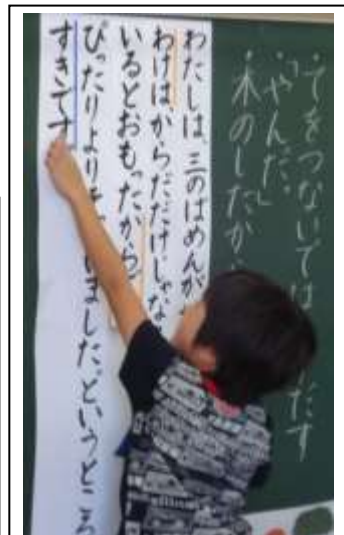
支援2 聞き手に分かりやすい順序を考えることができるよう、①～③の順序の提示の仕方を変える。【写真3】



【写真1】お気に入りの場面とわけをペアで交流する様子



【写真2】紹介カードIIをペアで紹介し合う様子

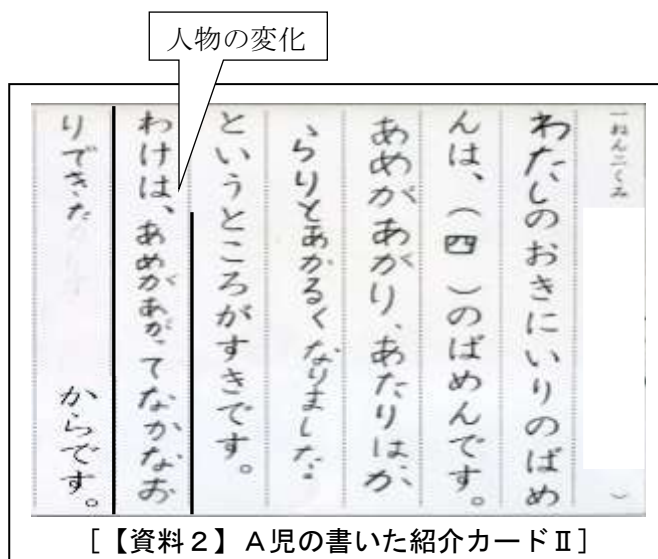


【写真3】文の順序を入れ替える様子

ウ 考察

【資料2】は、A児が書いた紹介カードⅡである。A児は、好きな理由を、「あめがあがってなかなかおきたからです。」と、前後の場面を比べて人物の変化を読み取り、紹介カードに表現することができた。このことは、中心となる行動や、前場面から変化した行動を動作化する等、場面毎に心情を細やかに想像したことが、人物の変化をとらえさせるための有効な手立てとなったと考える。

今回の実践では、全場面の振り返りをした際に、人物の行動や会話のみを振り返りの観点とした。しかし、紹介カードⅠ作りをして作った自分の考えを確かめ、紹介カードⅡ作りには、全場面で細かく読んできた人物の心情を振り返り、心情の変化や高揚感を確かめることが必要であった。さらに、想像した心情に対する自分の思いや考えを紹介カードⅠに書かせておくことで、人物の心情に寄り添い、より豊かに想像することができたのではないかと考える。また、紹介カードⅡを書かせる際に、書く時の観点を含んだカードのモデルを示す必要もあった。



【資料2】 A児の書いた紹介カードⅡ

(4) 実践1の成果と課題(○成果 ●課題)

- 人物の心情が表れている叙述に目を向けさせ、動作化を取り入れて読んだことで、場面毎に人物の心情を細やかに想像して読むことができた。
- カードⅠを場面毎に書き、カードⅡを書く際の振り返りに使用したことで、人物の関係の変化を確かめることができた。
- 紹介カードⅠ作りの際に、場面毎に、自分がその場面をどう思うかという読み手としての感想を書かせる必要があった。
- 全場面を振り返るための手立てが不十分であった。行動や会話だけでなく、想像した人物の心情や、心情の変化をおさえる必要があった。

実践事例2 平成25年11月12日 小都市立東野小学校 第1学年2組 26名

(1) 単元 本は友だち 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

(2) 単元目標

- お話を楽しんで読み、「ぼく」に宛てて書いた手紙を意欲的に紹介しようとする。(関心・意欲・態度)
- 登場人物の心情が表れている行動や会話、作品の題等を中心に、お話の好きなどころやその理由を書きながら想像を広げて読むことができるようにする。(読むこと)
- 文章の内容を、経験と結びつけながら解釈し、想像を広げたり、文章の内容に対す考えをまとめて紹介し合ったりすることができるようにする。(読むこと)
- 言葉には、事物の内容や経験したことを表現する働きや、意味による語句のまとまりがあることに気付くことができるようにする。(言語事項)

(3) 指導の実際と考察

ア 人物の行動や様子、心情を細やかに読むカードI作り

活動1 本時学習のめあてをつかむ。
 ・ 本時場面を音読する。

活動2 心情を想像する。
 ・ 人物の行動や会話を書き抜く。
 ・ 行動を動作化する。
 ・ 心情を想像する。

活動3 紹介カードIを書く。
 ・ 想像した心情を吹き出しに書き、その心情に対する自分の思いや考えを「ぼく」に宛てた手紙で表現する。

活動4 紹介する。
 ・ 紹介カードIを使い、ペアで交流する。

支援1 紹介カードIのモデルを提示する。
 ① 書き抜いた、場面の中心となる行動や会話文
 ② 吹き出しに書いた、想像した心情
 ③ 想像した心情に対する自分の思いや考え

支援2 動作化によりつかませたい心情がわかる行動や会話文を選定する。
 ・ 中心となる行動
 ・ 前場面から変化した行動

支援3 想像した心情を書く視点(ぼく)と、それに対して持った感想を書く視点(自分)を明確にもてるよう助言する。

イ 登場人物に対する思いを深めるカードII作り

活動1 全場面の人物の心情を振り返る。
 ・ 各場面の紹介カードIを並べる。

活動2 紹介したい場面を決めて紹介する。
 ・ 心に残った場面を選ぶ。【写真4】
 ・ わけをペアで交流する。

活動3 紹介カードIIを書く。【写真5】
 ・ 活動2をもとに、自分の心に残った場面を再度吟味する。
 ・ カードに、「ぼく」に宛てて手紙を書く。

活動4 紹介する。
 ・ 紹介カードIIを使い、ペアで交流する。【写真6】

支援1 場面毎に深く読んでいる子のカードIを提示する。【写真7】
 ・ 人物の変化、人物への共感、場面の山場、高揚感をとらえさせる。

支援2 ハート図を提示する。
 ・ 人物の心情の高まりを視覚的にとらえさせる。

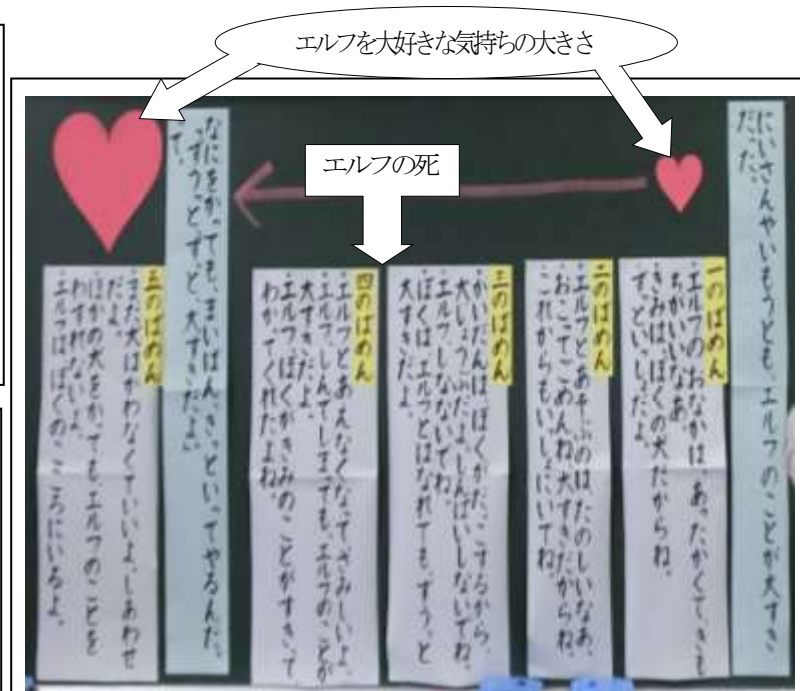
支援3 紹介カードIIのモデルを提示する。【資料3】
 ・ 人物の変化、人物への共感、場面の山場、高揚感がわかるモデルを提示する。



【写真4】好きな場面を選ぶ様子



【写真5】紹介カードIIを書く様子



【写真7】掲示した場面毎の「ぼく」の心情

ウ 考察

【資料4】は、A児が書いた紹介カードⅡである。

「ぼくはとってもしあわせだとおもいます。」と想像を膨らませて読んだことをもとに、「ぼく」への手紙に書き表すことができた。

実践1では、紹介カードⅡに人物の変化を表現したA児だったが、本実践では、紹介カードⅠで積み重ねてきたことをもとに【資料5】、「ぼく」の気持ちに寄り添い、人物への共感を豊かに表現することができた。今回の実践では、場面毎に想像した心情に対する思いや考えを書かせ、それらを振り返らせたことや、深く読んでいる子のカードを提示し、ハート図を使って、ぼくのエルフに対する大好きな気持ちの高まりが視覚的にとらえやすい板書を構成したこと、さらには、人物の変化、人物への共感、場面の山場、高揚感がわかるモデルを作り、提示したことなどが効果的であったと考える。



【写真6】 紹介カードⅡを使い、ペアで交流する

人物への共感	人物への共感	人物への共感
<p>おげんきですか。「ぼく」は、 いまでも、エルフのことが大好き なんだね。大喜きなきもちを ちゃんとつたえた「ぼく」は、 やさしいね。そのきもちをちゃ んとつたわっているよ。だから エルフはいまでも、「ぼく」のこ ころのなかにずっといるんだよ ね。</p> <p>わたしも、どうぶつをかった ときには、「すうつと、すうつと、 大喜きだよ。」っていつからね。</p>	<p>エルフのことがいまでも大好きなぼくへ</p>	<p>エルフがずっと大好きだと大喜きなぼくへ 一めん二めん なまえ</p> <p>わたしは、ぼくのことかうり やましいです。どうぶつを いたけれど、ままがねこが ういたか、うがてはいけま せん。もしも、どうぶつを かたら、としをとっても 大喜きでいたいです。 ぼくは、とてもしあわ せだとおもいます。</p>
【資料3】 提示した紹介カードⅡのモデル】		【資料4】 A児の書いた紹介カードⅡ】

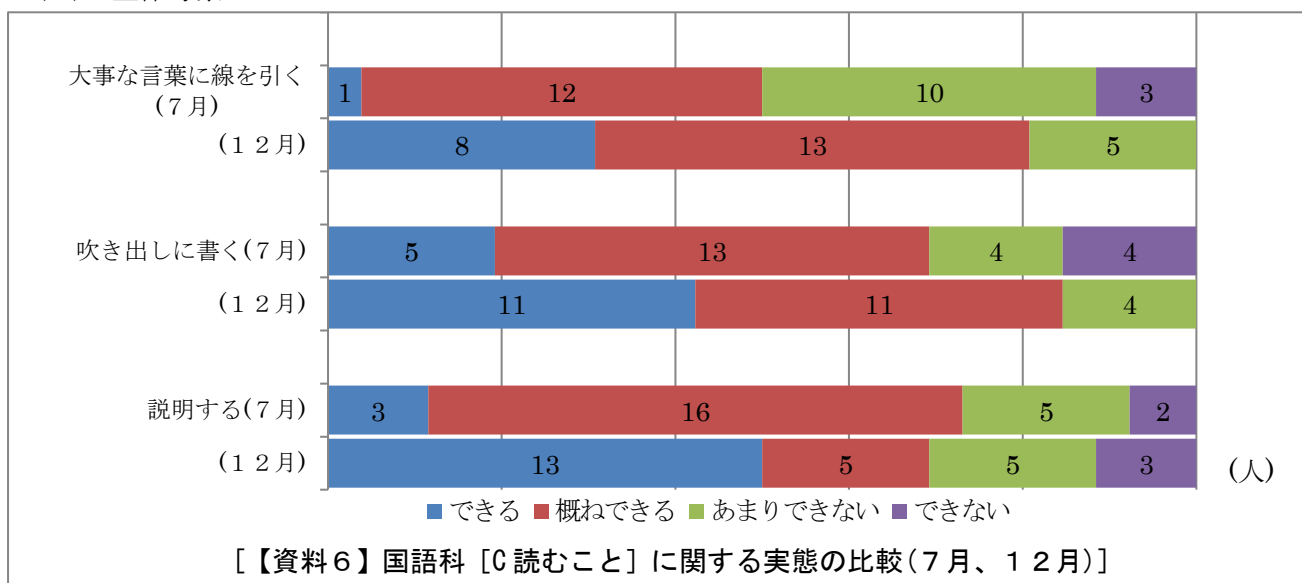
五の場面	四の場面	三の場面	二の場面	一の場面
<p>「ぼく」へ すうつと、しんでもエルフ が大喜きなんだね。つぎにかう いぬも大喜きになるよいいね。</p>	<p>「ぼく」へエルフがしんでし まてかなしいよね。</p>	<p>「ぼく」へとしをとって べんほもいけなくなつた元 つを大喜きでやさしいこころ をもっているね。</p>	<p>「ぼく」へエルフがそんな 大喜きなんだね。まい日 しいね。さようばら。</p>	<p>「ぼく」へエルフとずっといい にいれた、うれしいね。エルフが しあわせになれるね。さよう なら。</p>
【資料5】 A児の書いた紹介カードⅠ (1～5の場面)】				

(5) 実践2の成果と課題(○成果 ●課題)

- 紹介カードⅡを書く前に、深く読んでいる子のカードを提示したり、気持ちの変化に合わせて、ハート図の大きさを変えながら使ったりしたこと、人物の心情の高まりをとらえ、紹介カードⅡに表現することができた。
- 紹介カードⅠに、想像した心情に対する感想を人物への手紙という形で書いたことで、場面毎にもった感想を振り返り、紹介カードⅡの作成に活かすことができた。
- エルフに対するぼくの気持ちの変化のおさえが十分ではなかった。場面毎に、前場面と比べさせ、エルフを大好きな気持ちがかんたん膨らんだことをとらえさせる必要があった。
- 書いた手紙を読み合うペア活動は、子どもが必要を感じるができなかった。子どもが必要を感じ、意欲的に取り組める手立てが必要であった。

9 研究のまとめと今後の課題

(1) 全体考察



- 『お話の中の大事な言葉に線を引くこと』では、実践後に、「できる」「概ねできる」の合計が21人(全体の80%)になり、7月の50%から、30%増加した。【資料6】このことから、人物の心情を、想像を広げながら読むために紹介カードⅠを作る活動を設定したことは、人物の心情を表す大事な言葉に着目して読む上で有効であることがわかった。
- 『登場人物の行動を中心に想像を広げて読み、想像したことを吹き出しに書くこと』では、実践後に、「できる」「概ねできる」の合計が22人(全体の84%)になり、7月の70%から、14%増加した。【資料6】このことから、動作化をする人物及び、動作化により豊かに想像させた人物の行動を表す言葉や会話文、心情がわかる行動や会話文を選定して動作化させることは、人物の心情を細やかに想像して表現する上で有効であることがわかった。
- 自分の考えの理由を根拠をもとに説明することでは、実践後に、「できる」「概ねできる」の合計が22人(全体の84%)になり、7月の73%から、11%増加した。【資料6】このことから、紹介カードⅠ・Ⅱ作りを通すことは、お話をより想像豊かに読み、想像したことを活かして自分の思いや考えを書く能力を育む上で有効であることがわかった。

(2) 研究の成果

- 人物の行動や会話を動作化することは、言葉にこだわって読んだり、人物の心情や様子を細やかに想像したりする上で有効であった。
- 動作化を取り入れて人物の心情を細やかに想像し、想像した心情に対してもった感想を人物への手紙という形で紹介カードⅠに書かせたことは、想像した心情やそれに対してもった思いや考えを想起し、紹介カードⅡに活かして書く上で有効であった。
- 紹介カードⅠに、各場面の人物の言動や様子、叙述から想像した人物の心情や、想像した心情に対してもった自分の思いや考え等を書き込ませたことで、場面毎に人物の心情を細やかに想像することができた。
- 想像した人物の心情に対する自分の思いや考えを場面の変化をおさえて書かせることは、全場面を振り返るための有効な手立てとなることがわかった。
- 紹介カードⅡを書く前に、深く読んでいる子のカードを提示したり、ハート図を使って人物の心情の高まりを一目でとらえることができるようにすることで、作品や人物に対する思いをより深めさせることができた。
- 人物の変化、人物への共感、場面の山場、高揚感がわかるカードのモデルを提示したことで、カードを書く時の観点をつかませることができた。
- 想像した心情に対してもった感想を、人物への手紙という形で書かせることは、読み手としてどう思うかを素直に書き表すために有効であることがわかった。
- 「かんそうのことば」を掲示し、感想を書く際に使用させたことは、子どもの語彙量を増やしたり、子どもの中にある思いや考えをより適切な言葉で表現させたりする上で効果的であった。

(3) 今後の課題

- 紹介カードⅠ作りで想像を膨らませて書いた内容を紹介カードⅡ作りで活かすための人物の心情の変化のおさえかたの工夫
- 全体交流の前のペア交流における、自分の思いや考えを表現する意欲を喚起する方法の工夫

〈参考文献〉

- ・ 文部科学省 『小学校指導要領解説 国語編』
- ・ 井上一郎 『「読解力」を伸ばす読書活動』
- ・ 西郷竹彦 『子どもの見方・考え方を育てる小学校低学年・国語の授業』
- ・ 堀江祐爾 『実物資料でよくわかる！教材別ノートモデル40』
- ・ 二瓶弘行 『教材研究の条件』
- ・ 国語教育実践理論研究会 『教材再研究』
- ・ 全国国語授業研究会・二瓶弘行・青木伸生 『いま、求められる文学の授業力』
- ・ 新読書社 『ものの見方・考え方を育てる 小学校一学年・国語の授業』